

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 12月 26日

**【評価実施概要】**

事業所番号	0171100266		
法人名	株式会社 サンボウ		
事業所名	グループホーム めくもりの里		
所在地	千歳市住吉4丁目8-14 (電話) 0123-26-5886		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年12月21日	評価確定日	平成22年3月2日

【情報提供票より】 (平成21年12月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	1~2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000円		その他の経費(月額)	水道光熱費30,000円
				暖房費(4.5.10月) 4,000円
敷金	無			暖房費(11~3月) 7,000円
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
	食材料費	朝食 250 円	昼食	250 円
		夕食 300 円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

(4) 利用者の概要 (12月 10日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	7名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.8歳	最低	70歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北星病院、北星館、浅沼皮膚科医院、はた歯科クリニック
---------	----------------------------

**【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】**

住宅地の一角にある当施設は、3階建ての1、2階がグループホームとして、また3階は高齢者アパートとなっています。施設全体が高齢者の生活の安全や快適さを考慮して造られており、バリアフリーの建物内部は明るく広々としています。ケアの面では利用者の身体能力の維持向上と、ゆったりと見守り、自立した生活を支えることを大切にしながら、めくもりのあるケアの実践に努めています。週4回の訪問リハビリなど、専門職と協働しながら利用者の生活の継続を支えています。外出やホームでの行事の企画を通じて社会との接点を持ったり、楽しみを共有しながら穏やかな生活を提供しています。

**【重点項目への取組状況】**

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価後の改善の取り組みは可能な部分から行なわれていますが、いくつかの部分で検討中或いは未着手となっています。改善計画シートなどを活用し、ホームとして重点的、或いは優先的に取り組む項目などを検討し、計画的に改善に取り組むことが期待されます。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員一人ひとりが、日頃のケアを振り返りながら自己評価に取り組んでいます。リーダーと管理者がユニット毎に取りまとめを行ない、自己評価を作成しています。自己評価の結果を職員全員が共有しています。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的開催されています。ホームの状況の報告や外部評価結果などが議題として取り上げられています。運営推進会議に多様な方々の参加者を促す取り組みとして、提携病院の看護師による勉強会を盛りこみ、地域や家族から好評をいただいています。更に活発な運営推進会議を目指し、多くの参加者からのホーム運営のヒントをいただいたり、地域のニーズを把握するなど、双方向的な活動の中から利用者の生活の向上へ結びつける工夫を検討しています。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪を増やす取り組みとして、毎月の利用料の持参をお願いしています。家族の来訪時には利用者の生活や健康について丁寧に伝え、思いや困っていることなど、何でも話せる雰囲気大切にしています。苦情があった場合には迅速に対応すると共に、再発の防止のために他ユニットを含めた職員全員に周知し、取り組んでいます。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームとして町内会に参加し、班長として利用者と共に無理のない地域参加を行なっています。ホーム便りを回覧したり、婦人部がホームの見学に訪れる等少しづつホームの理解が広がっています。地域の祭りに合わせた花火大会の開催や、近隣の方々を招いてのバーベキューなどを行ない、利用者とのふれあいの場を作っています。小学校の行事を見学したり、中学生の職業体験を受け入れるなど交流が行なわれています。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前の理念でも、地域の中での交流を大切にするという思いは込められていましたが、ホームの果たすべき役割を明確にし、新たに地域密着型サービスとして地域との関わりを明文化した理念を策定しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を一部見直し、ユニット会議などで理念を確認しています。管理者は理念を暗記するのではなく、実際のケアに活かすことを大切に、実践的な場面を想定しながら職員と話し合っています。	○	ホーム内に掲示されていた理念は以前のままのものでした。ケアの場面で振り返り、実践していくためには理念の浸透をはかる必要があります。新たな理念の共有の取り組みを期待します。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは町内会に参加し、班長として地域の活動に参加しています。回覧板でホームの情報を発信し、地域の盆踊りに合わせてホームの花火大会を企画したり、バーベキューに近隣の方を招くなど、地域の方々と利用者が交流する機会を作っています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員一人ひとりが作成し、リーダーと管理者が取りまとめを行ないました。取りまとめたユニット毎の自己評価は職員に周知しています。ユニット会議の中で、評価で見出された課題について職員全員が問題を把握し検討しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行なわれています。ホームの活動報告や外部評価結果などが議題として取り上げられています。また、提携病院の看護師を招いての勉強会を兼ねて実施するなど、地域の方々が集まる工夫が行なわれています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームでは、サービスを充実させ利用者の生活の質の向上に役立てるため、行政との連携に意欲を持っています。ホームの通信などを通じてホームの状況を伝え、制度等についての正確な情報をいただくなど、各機関と行き来する関係を築いています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりの生活の様子や金銭収支等を家族に送っています。また、利用者の生き生きとした表情を捉えたぬくもり通信も発行されています。病気や退院後など、利用者や家族の状況に応じて、きめ細やかな電話連絡が行なわれています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪する機会を増やすよう、利用料の持参をお願いしています。来訪時には日々の様子を詳しく伝え、話しやすい雰囲気家族の意向を引き出すようにしています。苦情等があった場合は、他ユニットにも周知し再発防止の取り組みを一丸となって行なっています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の個人面談を行ったり、休み時間などに気持ちを引き出し、汲み取ることによって離職を防ぐよう取り組んでいます。馴染みの関係の大切さを理解し、利用者に職員の退職をどのように伝えるかを検討し、混乱が起こらないように配慮しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は採用時に、社会人としての基本的な部分から研修し、実践を通じ先輩職員から理念の浸透したケアについて学んでいます。職員の自発的な提案により、内部研修が定期的に行なわれています。外部の研修にも、職員全員が参加できるよう配慮されています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の協会に加入し、研修や情報交換を行なっています。また、他グループホームから夏祭りや餅つきの行事に招かれ、職員や利用者が訪問しています。管理者は他のホームから学んだり、情報を得たりすることでホームが活性化することを感じており、地域のネットワークへの参加が検討されています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者や家族、それまで利用していた介護サービス事業者等から情報を把握し、不安なことや生活の希望などについても確認しながら、利用者や家族と話し合いを重ねています。ホームの見学を通じて理解を深めていただき、入居後も一人ひとりに合わせた対応をしています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者が出来ることを無理なく自分で行なえるように目配り、気配りを心掛けています。利用者の日々の暮らしの中から生活歴や特技などを学んだり、利用者ができない部分をさりげなく支え、感謝の言葉を伝えながら共に生活を送っています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の思いを表情やしぐさのなかから読み取るようにしています。夜勤時など1対1で過ごす時間を大切にし、気持ちを汲み取るようにしています。把握した情報は日誌に記録し、カンファレンスで検討を行っています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に把握した希望や課題分析、居室担当者が作成したMDSアセスメントを基に計画作成者が中心となって、ユニットカンファレンスで計画の検討を行っています。利用者や家族に説明を行ない、計画を作成していますが、ホームでは計画に利用者や家族の意向を取り入れていく工夫を模索しています。	○	チームで計画作成にあたっており、リスク分析や身体機能の維持・向上などの領域で細やかな内容となっています。しかし、地域の中でその人らしく暮らしていくという視点から、利用者や家族のアイデアや職員の気づきを取り入れることで、更に具体的な介護計画となることを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新規入居の際は1ヵ月、その後は3ヵ月～6ヵ月の期間で、利用者の状況に合わせて定期的に介護計画を見直しています。期間の途中でも身体状況や体調に合わせて最適な計画となるよう検討しています。変更が必要な場合は、利用者や家族、医療関係者の意見をまとめながら計画を作成し、その都度同意をいただいています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームとして、利用者の機能向上のため訪問リハビリを週4回提供しています。また、利用者の入院時には見舞いや医師に生活状況等の情報を提供するなど連携を図っています。病院への送迎や法事への付添い等、希望に合わせて支援しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望する医療機関での通院の付き添いなどを行ない、医師と家族との情報の共有の支援を行なっています。家族への報告をこまめに行ない、わかりやすく伝えることで家族に安心していただけるよう、また適切な医療を受けることが出来るようにしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況に応じて対応することとし、ホームとして事前の準備が整っていない状況にあります。利用者の個別性という問題もありますが、まずはホームとして重度化や終末期についての方向性や職員の意識の統一、関係機関との連携の可能性について検討することが望まれます。	○	利用者や家族にとって終末期のあり方は大きな関心事であると共に、なかなか切り出せない事柄でもあります。安心してホームで生活するための情報の一つとして方針を定め、家族と時々話し合うことで、関係者全体の意識統一を図っていくことも大切なことです。今後の取り組みに期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に合わせた言葉使いなど、誇りを傷つけない対応を心がけています。トイレの声掛けなど、声を掛けるタイミングや声の大きさに気を配っています。また、個人記録などの書類は扉のあるロッカーで管理しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの大まかな流れはありますが、利用者の個別性に配慮して、一人ひとりの希望に沿うようにしています。利用者の体調や気分に合わせて時間を変更したり、ゆっくり支援したりと柔軟に対応しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れた献立や、鍋やホットケーキ、焼きそば、お好み焼きなど、家庭的で利用者が参加しながら作る料理を盛り込んでいます。回転寿司やバイキングなどの外食に出かけたり、日常的に片付けを職員と一緒にこなすなど、楽しく行なえるよう支援しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に2回以上を目処とし、回数は希望に応じています。入浴の長さや温度など、希望に応じて対応しています。入浴を拒む場合も、風呂上りの楽しみを提供するなど、気持ちよく入浴していただけるよう工夫しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に合わせて外出行事を企画したり、運動会に行ったりと利用者の楽しめる機会を作っています。料理や菜園など、一人ひとりの得意分野を活かし、力量に応じた出番を作ること、楽しみや自尊心に繋げています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望により、意向に沿って外出が出来るよう支援しています。嗜好品の買物や季節の移り変わりを感じながらの散歩、ホームの菜園での畑仕事、回覧板を届けたりなど、外出できる機会が持てるようにしています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニット毎の入り口に施錠がされていますが、現在、鍵をかけないケアに向けた取り組みが検討されています。管理者と職員は施錠の弊害について共通の理解を持っており、利用者の意向で外出ができる体制となっています。	○	管理者と職員で課題を共有し、家族等の意見も確認しながら取り組むことを期待します。施錠によって利用者の生命を守る方法から、外玄関のセンサーなども活用し、鍵を掛けずに安全に過ごせる工夫を期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練は行なわれていますが、夜間を想定した訓練はまだ実施されていません。建物の防火体制の強化や運営推進会議等を活用し、地域住民の方々との連携強化について検討されています。	○	地域性や季節など、様々な状況のシミュレーションを通じてホームとしての課題を把握し、手順書の見直しや必要な物品の準備、地域の協力体制の構築などの取り組みを期待します。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー表などを参考に職員がバランスの良い献立を作り、管理栄養士から年2回ほどアドバイスをいただいています。食事制限や水分制限がある場合には医師の指示をいただき、適切な摂取と記録を行なっています。献立の写真を栄養価と共に居間に掲示しています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広々としており、利用者の作品や季節を感じさせる装飾を施し、居間で寛ぎながら食事の準備の香りや音を感じるなど、家庭的で温かみのある空間となっています。利用者が思い思いの場所で過ごすことができるように、ソファの配置なども工夫されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や大切な品物などを持ち込み、利用者の個性を活かした居室となっています。必要なものを利用者と一緒に買いに行ったり、仏壇のお水やお供えの手伝いなど、職員は利用者の力量に応じて支援しています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。